

資源管理型漁業推進総合対策事業調査（第Ⅰ期補完調査）

（広域回遊資源：日本海北ブロック）

（抄 録）

山田 嘉暢・小泉 広明・佐藤 恭成

本事業は第Ⅰ期の最終年である平成５年度に、資源管理指針を策定しており、第Ⅱ期の初年度である平成６年度は、資源管理実施後の効果の把握を目的とし、漁獲統計資料の整理と市場調査による補完調査を行った。

○ヒラメ

（１） 漁獲統計調査

１） 青森県日本海沿岸におけるヒラメの経年変化

昭和35年の73 t から増加傾向を示し、昭和44年には過去最高の406 t を漁獲した。

昭和44年から51年にかけては300 t から400 t 台を推移していたが、その後減少傾向を示し、52年には216 t まで減少した。そして昭和53年からは、緩やかに減少し、平成２年には過去最低の43 t まで落ち込んだ。平成３年以降増加傾向を示し、平成６年は122トンまで増加した。

２） 平成６年青森県日本海沿岸におけるヒラメの漁法別漁獲量

平成６年におけるヒラメの漁獲量は121.7 t で、漁法別では定置網（底建網を含む）86.0 t （70.8 %）、沖合底曳網17.8 t （14.7 %）、刺網9.7 t （8.0 %）、一本釣り5.1 t （4.2 %）、その他2.8 t （2.3 %）であった。

３） 平成６年青森県日本海沿岸におけるヒラメの漁獲尾数

銘柄別漁獲量、銘柄別全長組成から漁獲尾数を推定した。その結果、約14万尾と推定された。年齢組成は２歳魚（46.2 %）が最も多く、次いで３歳魚（33.5 %）、４歳魚（16.6 %）となっていた。

（２） 稚仔魚分布調査

平成６年７月から10月にかけて、鰺ヶ沢町出来島以北、十三湖までの砂浜海岸沖で、ヒラメ稚仔魚分布調査を行った。採集漁具は桁網を用いて、水深５ m 及び10 m を10分間曳網した。平成６年７月19日は、６尾採集され、全長範囲は２～９ cm で、モードは６ cm 台であった。平成６年10月11日は６尾採集され、全長範囲は９～11 cm 台であった。

○マガレイ

（１） 漁獲統計調査

１） 平成６年青森県日本海沿岸におけるマガレイ漁法別漁獲量

発 表 誌 名：平成６年度広域資源管理型漁業推進総合対策事業報告書 平成７年３月青森県（日本海北ブロック）

平成6年におけるマガレイの漁獲量は82.7 tで、漁法別では沖合底曳網42.2 t（51.1%）、定置網（底建網を含む）29.4 t（35.6%）、刺網11.0 t（13.3%）であった。

2) 平成6年青森県日本海沿岸におけるマガレイの漁獲尾数

銘柄別漁獲量、銘柄別全長組成から漁獲尾数を推定した。その結果、約100万尾と推定された。年齢組成は2歳魚（59.7%）が最も多く、次いで1歳魚（28.1%）3歳魚（10.2%）となっていた。

(2) 魚体測定調査

平成6年1月から12月までに鰺ヶ沢、大戸瀬漁協で水揚げされたマガレイについて精密測定を行った。漁獲されたマガレイは16cmから20cmの個体が多く、成長式から年齢を推定したところ2歳から3歳の個体と推定された。

○マコガレイ

(1) 漁獲統計調査

1) 平成6年度青森県日本海沿岸におけるマコガレイの漁法別漁獲量

平成6年におけるマコガレイの漁獲量は59.5 tで、漁法別では定置網（底建網を含む）41.7 t（70.1%）、沖合底曳網11.7 t（19.7%）、刺網6.1 t（10.2%）であった。

2) 平成6年青森県日本海沿岸におけるマコガレイの漁獲尾数

銘柄別漁獲量、銘柄別全長組成から漁獲尾数を推定した。その結果、約23万尾と推定された。年齢組成は2歳魚45.8%が最も多く、次いで1歳魚が32.2%、3歳魚が16.6%となっていた。

(2) 魚体測定調査

平成6年1月から12月までに小泊、鰺ヶ沢、大戸瀬漁協で水揚げされたマコガレイについて全長測定を行った。漁獲されたマコガレイは22cmから28cmの個体が多く、成長式から年齢を推定したところ2歳から3歳の個体と推定された。